

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年

使用教科書：（高等学校 言語文化（第一学習社））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数		
		話・聞	書	読							
1 学 期	A 古文入門 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもつ。	・古文の学習		○			○	○	○	4	
	B 古文入門 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合う。	・宇治拾遺物語 「児のそら寝」		○				○	○	○	4
	定期考査							○	○		1
	C 古文入門 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉える。	・竹取物語 「なよ竹のかぐや姫」		○					○	○	○
定期考査							○	○		1	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
			話・ 聞	書	読						
2 学 期	D 随筆 【知識及び技能】 本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 本文中に表れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合う。	・徒然草 「九月二十日のころ」			○	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解いている。 ・さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解している。 ・随筆の内容・構成などを粘り強く把握し、学習課題に沿って説明している。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合っている。		○	○	○	7
	E 歌物語 【知識及び技能】 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉える。	・伊勢物語 「芥川」			○	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解している。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉えている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・主として助動詞の活用について、文語のきまりを理解している。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えている。		○	○	○	7
	定期考査						○	○			1
	F 近現代の詩歌 【知識及び技能】 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 詩独特の表現方法や構成などを理解し、作品に託されたメッセージを読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 描かれた情景や象徴的な表現を読み取り、進んで作者の心情について話し合う。	・詩 「贅のうへ」 「ひとつのメルヘン」 「自分の感受性くらい」 「I was born」			○	・文語や散文で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情を捉えている。 ・詩独特の表現方法や構成などを理解し、作品に託されたメッセージを読み取っている。 ・象徴的な表現を読み解き、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解している。 ・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取れている。		○	○	○	9
	G 近現代の詩歌 【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の伝統文化の一つである短歌・俳句の鑑賞の仕方を理解し、近代を代表する歌人・俳人の作品を味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を積極的に豊かにする。	・短歌 「その子二十」 ・俳句 「こころの帆」			○	・我が国の伝統文化の一つである短歌・俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わっている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・我が国の言語文化に特徴的な、短歌・俳句の表現の技法とその効果について理解している。 ・短歌・俳句の形式や表現を進んで理解し、学習の見直しをもって短歌文芸に親しんでいる。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしている。		○	○	○	9
定期考査						○	○			1	

